

尾花沢市DX推進計画(2.0版) 概要版

1. 計画の概要

●策定の背景

全国的な少子高齢化の進行と労働人口の減少が深刻化する中で、自治体においては、多様化・複雑化する住民ニーズへの対応が求められています。

本市では、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めるため、デジタル技術を活用した新しいサービスを通して、市民生活をより良いものへと変革し、市民・企業・行政が一緒にデジタル化の恩恵を享受できるようにするための指針として「尾花沢市DX推進計画」を策定します。

●計画期間

令和8年4月1日～令和13年3月31日(5年間)

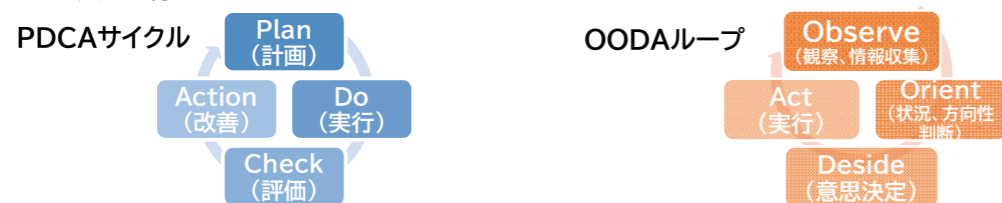
2. 推進体制

●行政、市民、企業各々が主体的に取り組むことを前提に、必要に応じて連携して進めます。

●行政においては市全体のDXを先導する立場にあります。



●個別のDXの取組については、PDCAサイクルにより、効果検証を行いながら、必要に応じて見直しを行ってまいります。また、状況の変化に応じた、迅速な対応が求められる際には、OODAループの考え方のもと、柔軟かつスピーディーに意思決定を行ってまいります。



3. DX推進の基本方針

デジタル技術の活用により既成の生活様式や働き方を見直し、新たな価値を創出する市全体の変革を目指し、「人、働き方DX」「暮らしやすさDX」「安全DX」「庁内DX」の4つの視点から、「新しい時代の尾花沢らしい暮らしの確立」を目指します。

- 人、働き方DX** デジタル社会に求められる人材の育成と多様化する働き方に対応した環境づくりに努めます。さらに、農業や工業、商業におけるデジタル化を支援し、産業の活性化を目指します。
- 暮らしやすさDX** マイナンバーカードを活用した行政サービスの拡充や医療体制の強化に努めます。また、デジタル技術の活用により、安心して子どもを産み育てることができる環境の整備と教育環境の充実を目指します。
- 安全DX** インフラ施設の管理効率化を進めるとともに、災害対策や大雪対策にデジタル技術を取り入れ、より強靱な体制づくりを行い、安心して暮らせる快適な生活環境の提供を目指します。
- 庁内DX** 行政手続きの在り方を再考し、よりきめ細かくで利便性に優れた市民サービスの提供とワークライフバランスの実現を目指します。

4. 施策内容

視点	分野	今後の取り組み方針	具体的な取り組み内容
人、働き方DX	デジタル人材の育成・確保	●プログラミング学習等を実施し、若年層のICT技術への関心を高める。 ●全ての市職員が基本的なDXの知識を習得し、事業に活用できるよう、研修を充実させる。必要に応じて、外部人材を活用することで、より専門的な知識の習得を図る。 ●DX施策を継続して推進するため、外部人材の登用を含め、体制の見直しについて検討する。	・青少年発明クラブにおけるプログラミング学習の実施 ・市職員に対する研修の実施 ・DX推進体制の見直し
	デジタルデバイド対策	●全ての市民がデジタルの恩恵を受けられるよう、国の「デジタル活用支援推進事業」を活用したスマホ教室を開催し、デジタルを活用した市の行政サービスについても内容に取り入れる。	・スマホ教室の開催
	産業の活性化	●マンパワー不足を解消し省力化や生産効率の向上につながるドローンや自動操舵の農業用機械、すいか収穫予測システムなど、地域に合ったデジタル技術の活用と普及を推進する。 ●ポイントカードについて、アプリの普及を図るとともに、行政サービスでの活用にも取り組み、利用者にとって使いやすい環境を整えることで、加入者の拡大と商業の活性化を図る。 ●テレワークが可能な環境整備を行い、多様な働き方を実現する。	・農業委員会サポートシステムの活用 ・農地情報公開システムの活用 ・スマート農業技術の普及 ・オーカードアプリの普及 ・テレワークができる環境整備
暮らしやすさDX	マイナンバーカードの普及・活用促進	●カード交付管理システムの導入や来庁者管理の円滑化を進める。 ●マイナンバーカードを活用した行政サービスやオンライン手続きの拡充により市民の利便性を高める。	・マイナンバーカードの交付予約のオンライン化と更新繁忙期の円滑なカード管理 ・マイナンバーカードを活用した行政サービスや行政手続きの拡充 ・電子タクシー券の普及
	子育てしやすい環境づくり	●予防接種履歴等の行政で保有しているデータと母子手帳アプリとの連動について、国での整備が完了次第、市民ニーズにあった母子手帳アプリを導入し、より手軽に子どもの健康管理ができるようにする。 ●今後も保育業務支援システムの活用を推奨し、保育の質の向上や負担軽減を図るとともに、安全な子育て環境を整備する。	・電子母子手帳アプリの導入検討 ・保育業務支援システムの継続活用
	健康・医療分野のDX	●オンライン診療等の導入について、調査・研究を継続する。 ●生涯元気づくりポイント事業について、デジタル技術の活用を検討する。	・オンライン診療等の導入についての研究 ・健康ポイントへのデジタル活用
	教育環境の充実	●高機能電子黒板を導入し、指導者用デジタル教科書及び学習支援ソフトと組み合わせることで、主体的・対話的で深い学びの一層の充実と誰ひとり取り残さない教育の実現を図る。 ●次世代型校務支援システムやゼロトラストの考え方によるセキュリティ対策の導入するとともに、教員が使用する業務用サブディスプレイや公会計用端末、出退勤システムの整備を行い、校務の効率化を図る。	・電子黒板を活用した授業の実施 ・校務DXの推進に係る環境整備
安全DX	安心・安全な暮らしの実現	●SNSや防災アプリ等による情報伝達の多重化や、罹災証明書交付体制の整備など防災DXを推進する。 ●道路のライブカメラや河川監視カメラ、水位観測システム等のデジタル技術の活用により、道路や河川管理の省力化と安全化を進める。 ●積雪深監視カメラや流雪溝の水位観測カメラなど、大雪施設の管理効率化を図るシステムを研究するとともに、引き続き除雪車の稼働状況を公開して大雪体制を強化する。	・SNSや防災アプリ等による情報伝達の多重化 ・罹災証明書交付の迅速化 ・災害用ドローンの活用 ・デジタル技術を活用した流雪溝の水位管理 ・除雪車稼働状況の見える化
庁内DX	3ない窓口の推進(フロントヤード改革)	●オンラインの総合窓口として入口をLINEに一本化するとともに、より多くの行政手続きをオンライン化することで利用率の向上を図る。 ●かんたん窓口システム(書かない窓口)と移動市役所(行かない窓口)の対象手続きを拡充し、市民の利便性を向上させる。	・行政手続きのオンライン化と入口の一本化 ・かんたん窓口システム及び移動市役所の対象手続き拡充
	情報発信力の強化	●LINEの機能を拡充し、個々のユーザー属性や興味関心に基づいたセグメント配信を導入することで、必要な人に、必要な情報を、最適なタイミングで届けるプッシュ型の情報発信を強化する。	・市公式LINEでのセグメント配信開始
	オープンデータの推進	●保有する情報資産の安全管理を徹底しながら、国が示す「自治体標準オープンデータセット」を参考にオープンデータを推進する。	・オープンデータ公開
	庁内業務効率化(バックヤード改革)	●AIやRPA等のデジタル技術を活用し、庁内業務の効率化を図る。	・封入封緘機の導入検討 ・会議録作成支援システムの活用 ・工事等入札参加資格申請の電子化検討 ・職員出退勤管理アプリの活用 ・災害時の職員間情報共有方法の検討 ・AI-OCR、RPAの導入検討 ・AIの業務への活用